

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	2	
政策	41計画の実現のために	担当課室	総務課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	人材育成基本方針に基づき、人材育成を実現していくため、研修計画の見直しとその計画の実施を行う。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	人材育成基本方針に基づき、人材育成を実現していくため、研修計画の見直しとその計画の実施を行う。
②①に基づく取り組み結果	人材育成基本方針に基づき、研修計画を見直すとともに、令和元年度においては、手話についての理解を深め、障がい者の立場に立った接遇を学ぶため「手話研修」を新設した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全職員	意図(対象をどうするのか)	求められる職員像に必要な能力を職員が身につけている
②事務事業の概要	人材育成基本方針に基づき、人材育成のため全職員に対して、それぞれに求められる各種研修を実施し、職員の能力開発を実現する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	各公共団体の独自性が求められる昨今においては、市民のために動ける職員、より高い目標を達成する自律型職員、組織力を活かせる職員が求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	①令和2年度研修計画の策定 ②階層別研修・実務研修の実施 ③派遣研修・自主研修の実施					
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i 職員数(二役、教育長を除く)	711	722	733	人	鎌ヶ谷市職員配置録
	ii 研修受講人数	1234	1419	1301	人	鎌ヶ谷市職員研修概要
	iii 研修受講人数/職員数	174	197	177%	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	2,982	2,651	金額(千円)	内容	3,603	
	国支出金(千円)		754	階層別研修		
	県支出金(千円)		191	実務研修		
	市債その他(千円)		1,675	派遣研修		
	一般財源(千円)	2,982	2,651	32	自主研修	3,603

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	改定した人材育成基本方針に基づいた研修計画の見直しとその計画を実施していく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	人材育成基本方針に基づき職員が必要な能力を身につけるため、研修・能力開発を実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30⇒R1繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和2年度への繰越額(単位:千円)				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	基幹系ネットワークリプレイス事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	10	○
政策	41計画の実現のために	担当課室	総務課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	川島 隆			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	なし	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	基幹系ネットワーク機器等に関する通信の負荷や経年劣化を考慮し、必要に応じて末端のハブや、ケーブル交換等を行う。
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	基幹系ネットワーク機器	意図(対象をどうするのか)	ネットワークの安定稼働
②事務事業の概要	基幹系ネットワーク機器及びケーブルをリプレイスする			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	本市において、基幹系ネットワークは物理的に分離することを前提としているが、今後は論理分離や無線、モバイル等も考慮していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	基幹系ネットワーク機器及び配線をリプレイスし、経年劣化によるネットワーク切断等のリスクを低減できた。				
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i 稼働率			99.9%	計画停止を除く停止時間を8時間以内(1開庁日程度)に留める
	ii				
	iii				
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算
事業費(千円)	0	1,596	金額(千円)	内容	9,578
国支出金(千円)			1,596	使用料	
県支出金(千円)					
市債その他(千円)					
一般財源(千円)	0	1,596			9,578

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	基幹系ネットワークの端末へ接続するための末端ケーブルは経年劣化しているものがあるため、状況に応じて個別に対処する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	経年劣化によるネットワーク切断等のリスクを低減できたため、有効性は高い。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	リプレイス完了	令和元年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	リプレイス完了	3,304	3,304	当初	3,304	1,596	H30からの繰越	
				H30⇒R1繰越	0		現年分	1,596
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)						